

ノイラミニダーゼ(NA)一致 不活化ウイルス完全粒子インフル エンザワクチンの交差防御効果

Saicheng ZHANG

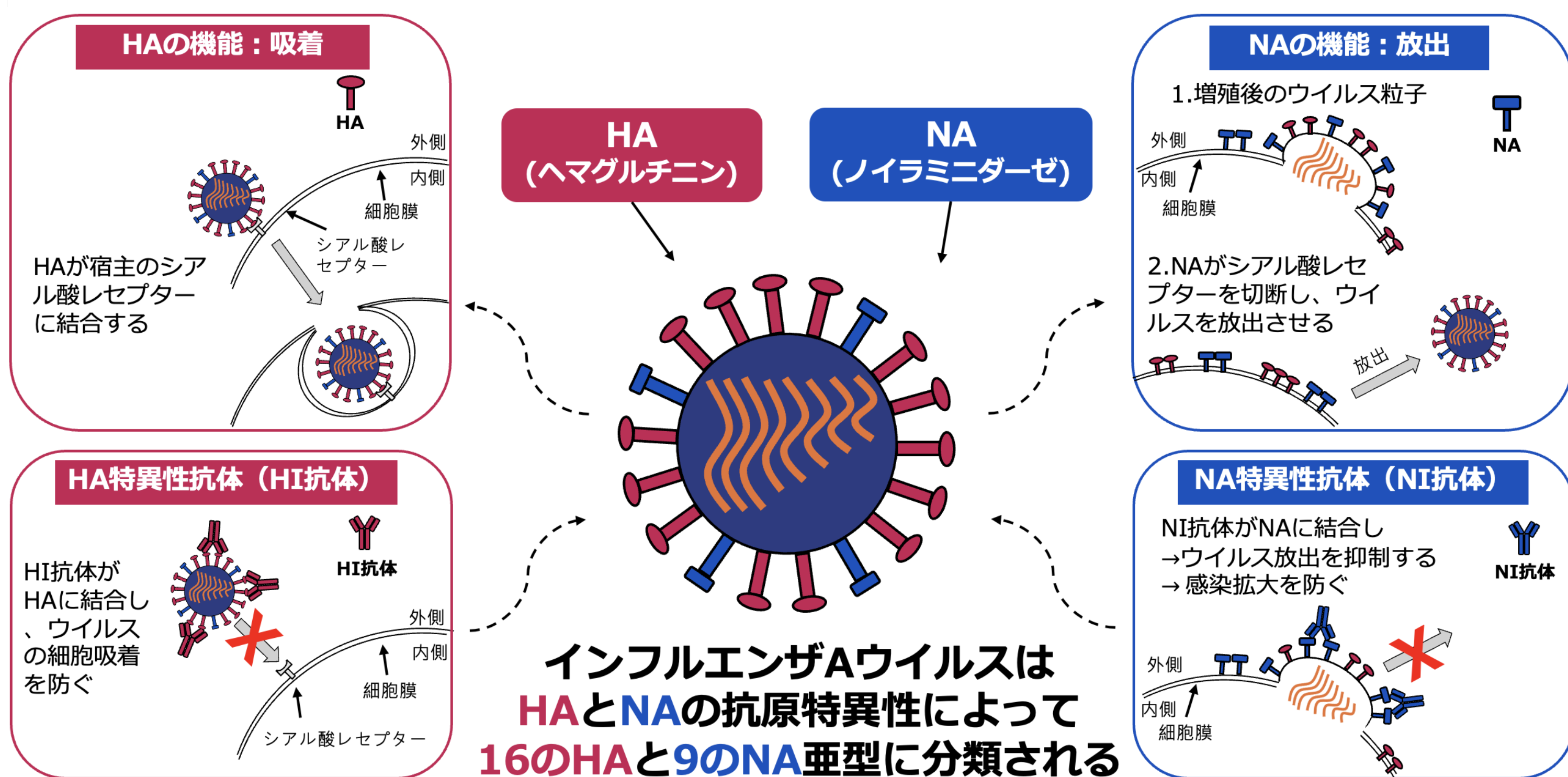
北海道大学 大学院国際感染症学院
生物製剤研究開発部門



未来社会のあるべきかたち

◆インフルエンザへの対策が十分に整っている社会。

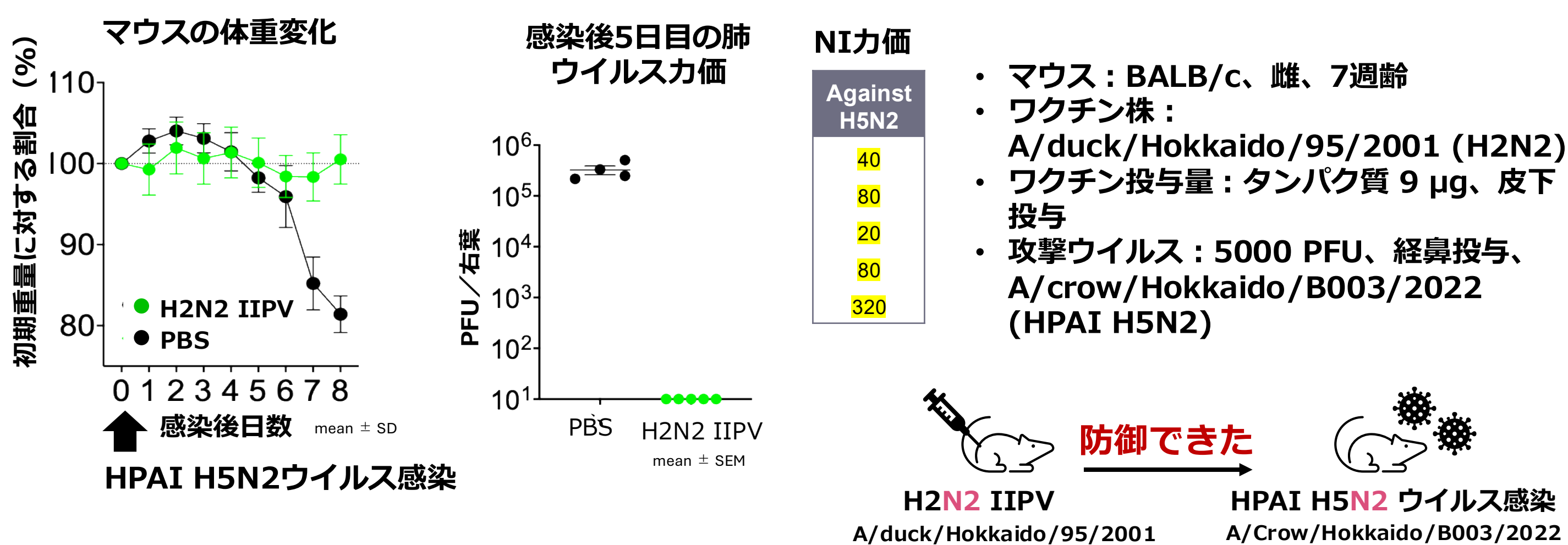
□ インフルエンザウイルスの構造と表面糖タンパク質の機能



□ 研究背景

- 近年流行している高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の起因 H5とH7ウイルスに対して、抗HA抗体が十分な感染防御効果を示さなかった。

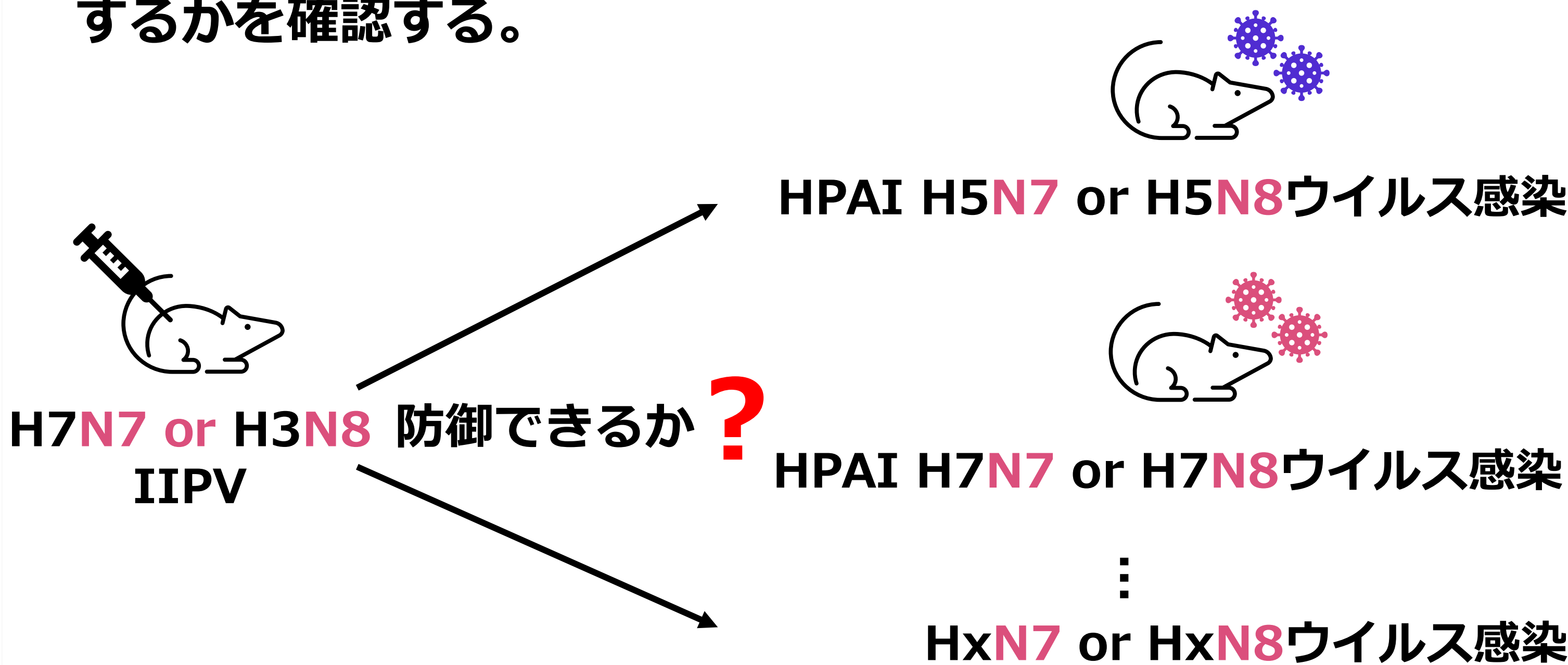
□ 当研究室のこれまでの研究結果



✓ NA共通不活性化ウイルス完全粒子ワクチン（IIPV）の異なるHA亜型ウイルスの**交差防御効果**が確認された。

□ 本研究の計画

- 本研究で、NAの亜型が共通で、HA亜型が異なるウイルスで調整したIIPVが、高病原性H5またはH7ウイルスの感染を防御するかを確認する。



□ 期待される結果

- ✓ NA一致型IIPVは同じNAを持つ複数の株に対して**交差免疫を誘導する**ことが確認されれば、インフルエンザ対策に資する。